

## 第2章 上野公園の将来像

# 1. 上野公園の将来像

上野公園の現状と特性を踏まえ、上野公園の将来像を以下に示す。

## 『日本の顔となる「文化の森」の創造』

～世界に向けて日本の文化・芸術を発信する拠点づくり～

上野公園は、江戸時代に寛永寺が創建された場所であり、以来約400年の長い歴史と伝統の上に築かれている。旧寛永寺五重塔や寛永寺清水堂、不忍池等が江戸の歴史的風情を今に伝えているほか、花見の名所、行楽地として親しまれてきた。

また、上野公園には、明治時代に公園として開設されて以来、我が国を代表する博物館等の文化施設が設置され、国内外の質の高い美術や音楽等を紹介し、芸術面における我が国の地位の向上や発展に大きく貢献してきた。

今日、21世紀を迎えた東京は、成長のステージを経て成熟を遂げようとしており、これまでに蓄積・集積された様々なポテンシャルを最大限に発揮し、日本から世界に向けて質の高い文化や芸術を発信することに取り組むこととしている。これらの取組は、アジアの諸都市などとの交流や連携を深め、互いの発展につながり、ひいては、国際社会における文化・芸術面での日本のプレゼンスを確立することとなる。

このため、上野公園では我が国を代表する美術館・博物館・大学・公園管理者等が協力し一体となって、魅力的な文化・芸術を創造し、世界に発信する拠点づくりに取り組む。さらに上野の山と不忍池を中心にみどりに囲まれた美しい都市景観を再生する。これらにより、世界中から来訪者を迎え入れ、多くの人々が交流し、絶えずにぎわう「文化の森」を創造する。

### ○ 日本の顔としてふさわしい文化・芸術があふれている

- ・ 上野公園内の文化施設からは、常に質の高い美術や音楽が、紹介、発信されており、日本における文化・芸術活動の拠点として揺るぎない地位を確立している。
- ・ 行政と各種の文化施設及び東京藝術大学等とが連携して取り組むイベントが、文化施設の中だけではなく、公園の広場等屋外空間を利用して一体的に展開されることにより、上野公園全体から世界に向けて文化が発信されている。
- ・ 上野公園や周辺地域に受け継がれてきた、歴史資源や風習、伝統工芸の価値が見直され、江戸の文化が国内外に積極的に発信されている。
- ・ 上野公園内から発信される文化・芸術のイベントが、公園の周辺地域にも波及し、この地域全体が文化性豊かで特色のあるまちとして、世界中に紹介されている。

## ○ 美しいみどりと水の景観が形成されている

- ・ 大木を中心とした明るい林に文化施設が溶け込み、上野の山全体として良好な景観が形成されている。
- ・ 春は桜の名所として、夏は蓮、秋は紅葉と、四季折々の豊かな表情が楽しめるほか、不忍池及びその周辺において、江戸下町の風情が感じられる空間となっている。
- ・ 不忍池周辺において、景観を保全し、生み育てる社会的気運が醸成され、行政だけではなく都民や企業と協働した取組により、建築物や広告物が調和した街並みが形成されている。

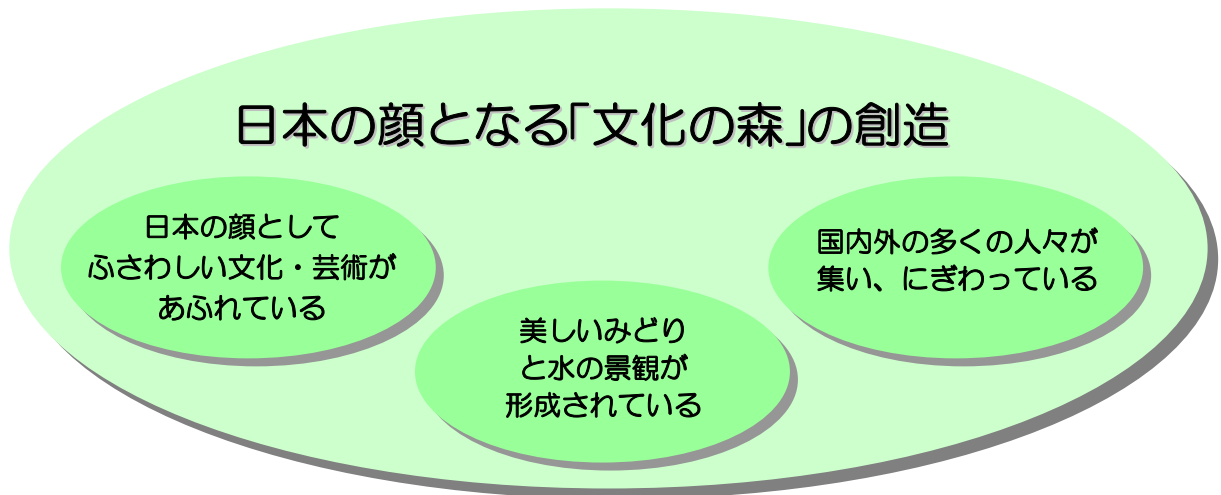
## ○ 国内外の多くの人々が集い、にぎわっている

- ・ 上野公園には、国内だけでなく、世界中の国からますます多くの人々が訪れ、観光だけではなく、文化・芸術を通じた交流が盛んに行われている。
- ・ 文化施設を訪れた家族連れや団体客等が、広場等において、飲食を楽しめるなど、やすらぎ憩える空間となっている。
- ・ 初めて上野公園を訪れた外国人や観光客など誰もが不自由なく、スムーズに目的地にたどり着けるようになっている。
- ・ 文化施設で開催されている展示の内容やイベント、さらには周辺の街の情報が総合的に発信されている。
- ・ 上野公園の来訪者が、個性豊かで特色ある周辺のまちにも気軽に行き来し、多様な文化を楽しみ、享受するなど、回遊性の高い地域となっている。

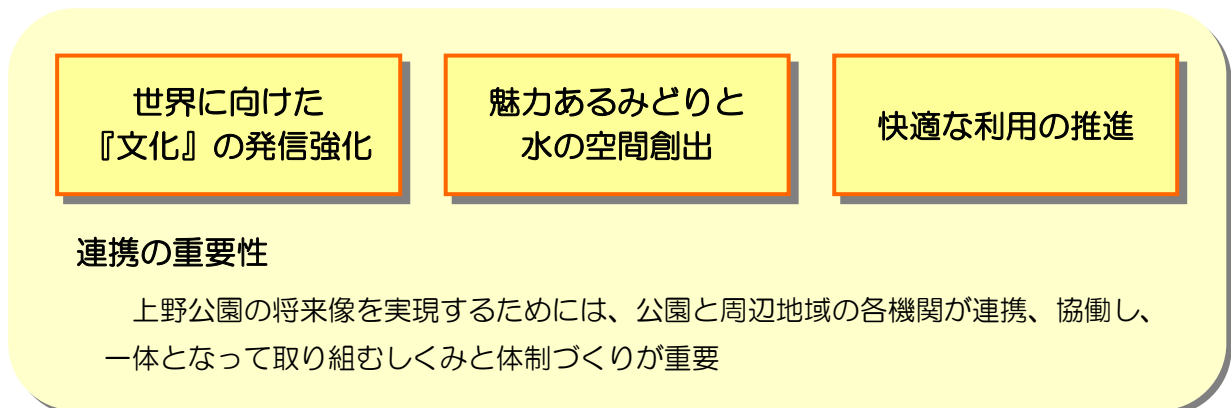
## 2. 「文化の森」の創造に向けた基本的考え方

上野公園の将来像である「日本の顔となる『文化の森』の創造」に向けた、施策の方向を示す。

< 将来像 >



< 施策の方向 >

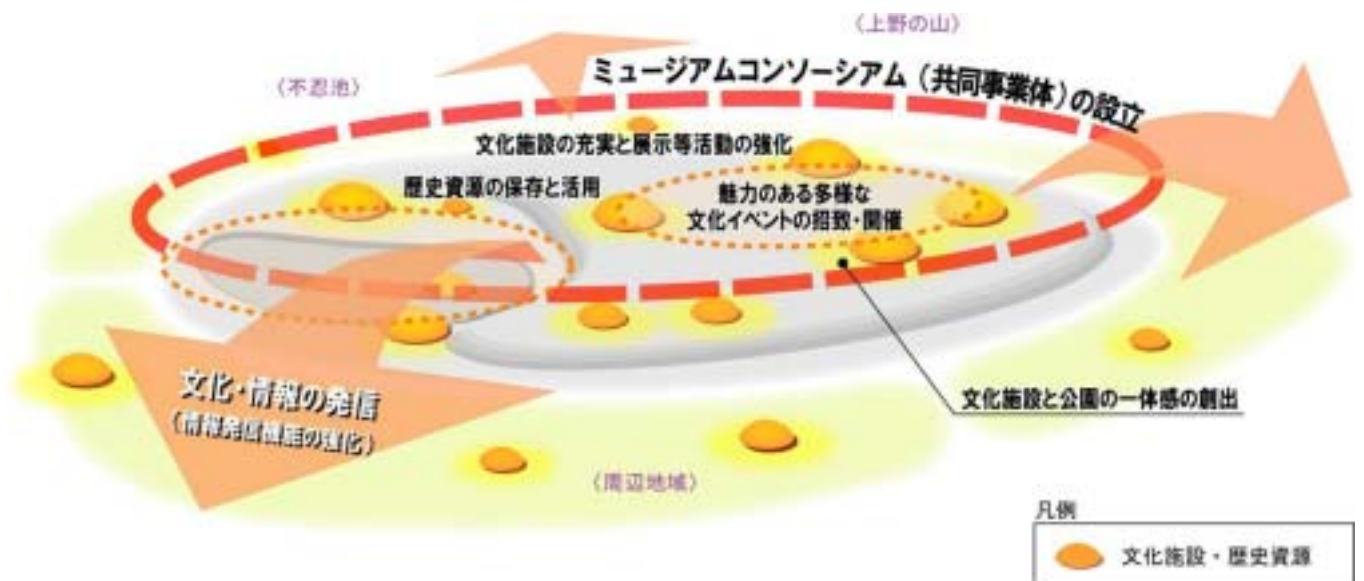


## ① 世界に向けた『文化』の発信強化

上野公園とその周辺地域には、江戸時代より受け継がれてきた豊富な歴史資源や、我が国を代表する文化施設の集積と個性豊かな特色あるまちがある。これらの特性を活かして、上野に関係する各機関が一丸となり、魅力的で質の高い文化の国内のみならず世界に向けた発信強化に取り組む。

文化施設を中心とした協働体制として、ミュージアムコンソーシアム(共同事業体)を設立し、その主導により、みどりと水の公園空間を最大限に活かした魅力ある多様な文化イベント等の招致・開催を図る。あわせて、「文化の森」を広く伝えていくために、情報発信機能を強化する。

歴史資源は、江戸・東京の歴史を今に伝えるものとして、適切に保存、活用する。文化施設においては、施設の充実と展示等の活動の強化を図る。



「世界に向けた『文化』の発信強化」イメージ

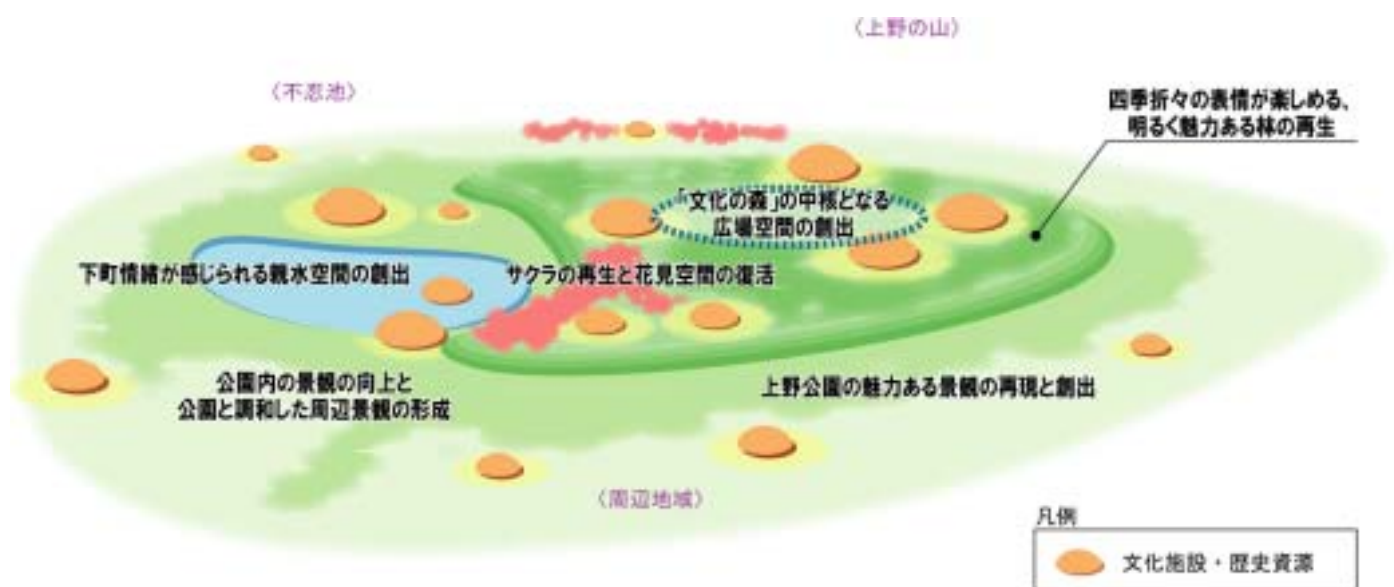
## ② 魅力あるみどりと水の空間創出

上野の山と不忍池は、江戸時代から景勝地として多くの人々に親しまれ、現在においても、多くの人々が自然とふれあうことができる空間として親しまれている。今後も、上野の山と不忍池を中心に魅力あるみどりと水の空間創出に取り組む。

上野の山は、「文化の森」の中核となる大広場を整備し、来訪者が憩い安らぐことができる明るい魅力ある林を再生する。上野の象徴として親しまれている桜については、江戸の伝統的な花見を体験できる空間の復活、桜の樹勢回復や後継樹の育成を図る。

不忍池畔では、下町情緒が感じられる親水空間を整備するとともに、区立下町風俗資料館や蓮見茶屋等との連携により、下町文化を体感できる催事等の企画・運営を推進する。

公園内の景観の向上に取り組み、特に歴史性を活かした魅力ある景観の再現・創出を図る。周辺地域についても公園と調和した良好な景観の形成を図る。



「魅力あるみどりと水の空間創出」イメージ

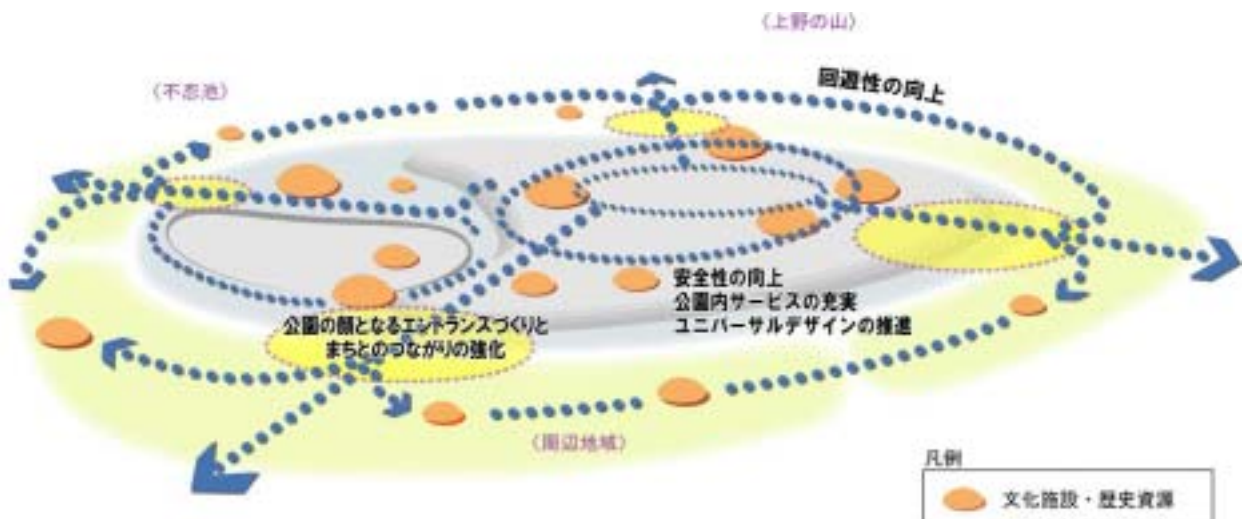
### ③ 快適な利用の推進

すべての来訪者が公園、文化施設、及び周辺のまちを、安全に安心して、かつ快適に利用することができるよう取り組む。

公園の入口部分には、「文化の森」に相応しい風格を備え、来訪者が安全で快適に利用できるエントランス広場を整備する。ユニバーサルデザインの推進やわかりやすいサインの充実などにより、円滑な移動動線を確保する。

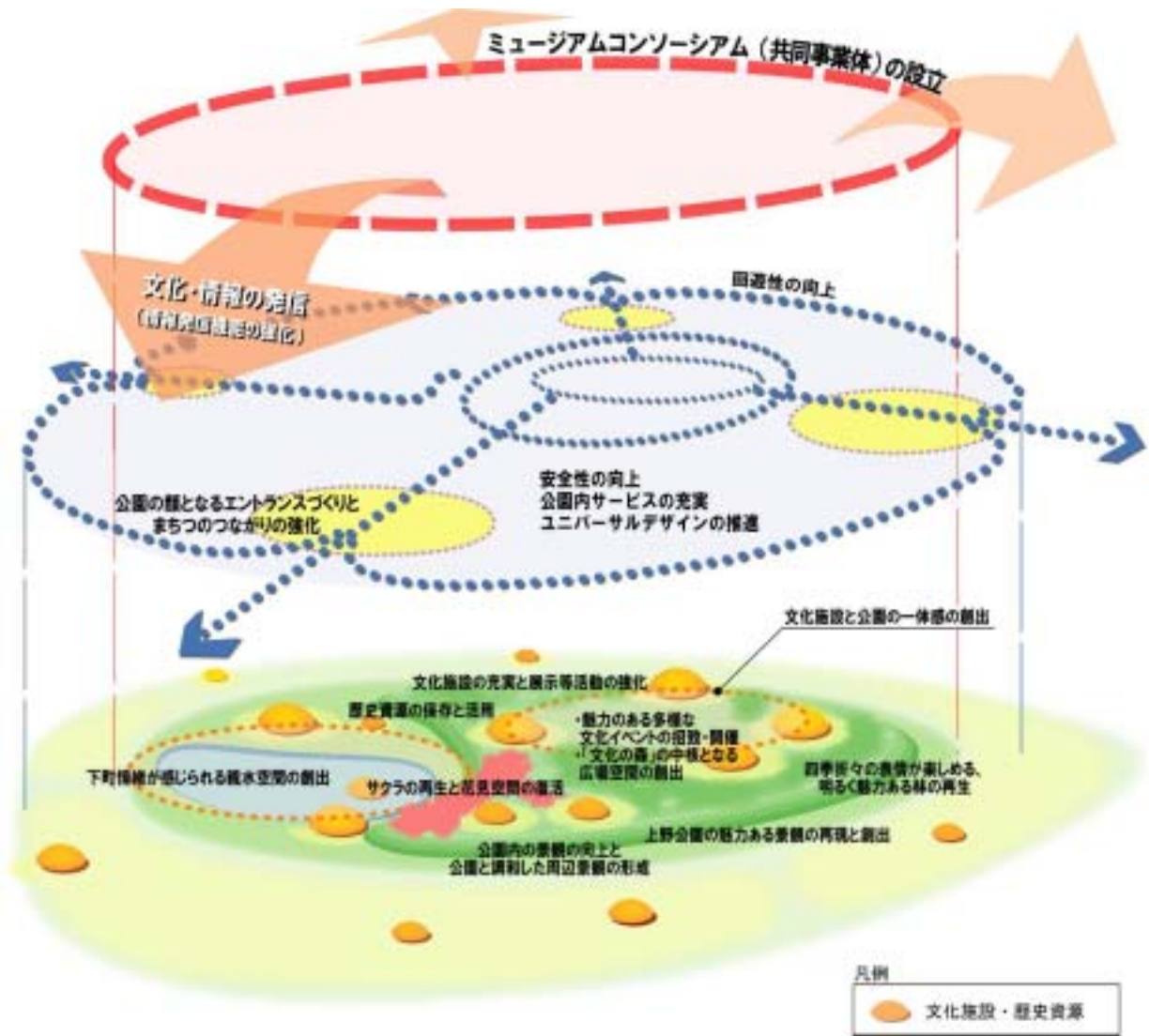
公園内では、飲食施設等の公園内サービスの充実、老朽した施設の改善や公園の管理の適正化を推進し、利便性の向上を図る。併せて、災害時の避難場所としての施設整備を行い、防災機能の向上を図る。

また、公園施設の再整備にあたり、環境への負荷低減についても積極的に配慮していく。



「快適な利用の推進」イメージ





上野公園グランドデザイン 施策の方向の全体イメージ

### 3. 連携の重要性

上野公園には、行政、博物館・美術館等の文化施設、大学、寺社、民間企業等の多様な機関が関わっているが、これまではそれぞれの機関が独自の取組により施設の整備、維持管理、催事やイベントの企画・運営を実施してきた。上野公園は現在も非常に多くの来訪者が訪れる観光地であるが、各機関の独自の取り組みだけでは、おのずと限界がある。世界的に見てもこれほどレベルの高い文化施設が集積している例は少なく、上野公園がさらに発展していくためには、このポテンシャルを最大限に活用することが必要である。そのためには、各機関が連携、協働し、公園全体として様々な施策に取り組んでいくことが重要である。

そして、このような上野公園全体としての取り組みは、上野公園の中にとどまらず、周辺の地域にも広がり、地域全体の発展に寄与する可能性がある。

今後は、上野公園の将来像を実現するため、上野公園と周辺地域の各機関が連携、協働し、一体となって総合的に施策を展開するためのしくみと体制づくりが求められている。